



2022年5月1日主日共同礼拝メッセージ 日本同盟基督教団 クリスチャンプレイズチャーチ
【様々な戦いに対する防備と勝利⑥ー救いのかぶとー】 説教者: 鄭南哲牧師
聖書: エペソ人への手紙6章10-17節・暗唱聖句: ヨハネの福音書5章24節(Rev.Jung nam-chul)

今日は神様の民として、人生の様々な戦いにおいて霊的勝利者になるために私たちが身につけるべきことは何なのかその六つ目の時間です。今日も神様の御言葉を通して、神様の御心と望みを知り、従って守り行うことにより、神の大きな勝利が我らの勝利とさせる5月となりますように心からお祈り申し上げます。

アメリカのペンシルベニア州フィラデルフィアにあるウェストミンスター神学校の教授であるシンクレア・ファーガソン(Sinclair B. Ferguson)教授は、エペソ人への手紙6章の神のすべての武具を取りなさいという神の命令の意味には、サタン含め、もろもろの悪しき者たちの攻撃のない人はひとりもないということと、神の信じる民にどれほど激しく、継続的なのか、その攻撃から、我々が耐えて、守られる為であるので、いつも油断してはいけな指摘しています。

最近、みなさんにはどんな霊的な戦いがあるでしょうか。また5月中にも襲って来る戦いに対し、堅く立って十分に対抗し、勝利する5月となりますようにお祈りいたします。

<1.かぶとの大切さ>

今日の聖書の本文エペソ6章17節を見ると、「救いのかぶととをかぶり、御霊の剣、すなわち神のことばを取りなさい」と書かれています。愛するみなさん、かぶとは戦争の時、胸当てと一緒に軍人が自分を保護するために使われていて頭を守る武具であります。頭は昔も、今も体中一番大切などころに違いはありません。

体の他の部分は矢に打たれたり、剣でケガをしたとしても急所(きゅうしょ)をはずれば、生きる可能性はありますが、頭がやられると命に直接かかわるところではないでしょうか。

* **かぶと**: Περικεφαλαια(ペリケパルライア) = * Περ(周り) + * κεφαλη(頭): 頭を保護する武具

* 当時、**ローマ軍のかぶと**を、ガレア(Galea)だと呼ばれ、身体の中で一番大切な頭を守るための武具でした。頭だけではなく、このローマ軍が使ったガレア(Galea)と呼ばれたかぶとは、青銅(せいどう)や鉄で作られ、頭だけではなく、顔まで完全に保護出来るように包まれる丈夫なでした。当時ローマ軍隊は戦いにおいて頭を保護し、勝利するために古代社会で一番りっぱなかぶとを製作していました。他国では布や動物の骨でつくられたかぶとを使っていた時代の中、ローマの軍はあごのひもと顔面(がんめん)まで隠し、くびの後ろと横にまで完全に保護することが出来るほど、他国より発展したかぶとをかぶっていたのです。

時代がかわって、今日武具も先端をはしり、軍人たちの服装も変わって来ています。しかしながら、当時のかぶとと今の軍人たちの鉄や青銅かぶとはそんなに大きい違いはないようです。これは戦いにおいて昔からも人体(じんたい)の保護するために一番大切に頭を守ろうとしていることは昔も今も変わってないからかも知れません。

今日も戦争場に出る時かぶとをしっかりとかぶらず出る兵士は誰一人いないでしょう。飛んで来ている弾丸(だんがん)の戦争場で鉄のかぶとをかぶっていないなら、一番大切な頭をさらし出すことと同じで、結局死を自ら招くことになりがちです。

今日使徒パウロは人体(じんたい)において一番大切な頭には救いのかぶとをかぶりなさいと言っています。神の国と神の義を成し遂げるために霊的戦いをしている神の子供たちは再び主が来られるその日までかならず救いのかぶとをかぶっていなければなりません。旧約聖書 **イザヤ書 59章17節**「主は義をよろいのように着て、救いのかぶとを頭にかぶり、復讐の衣を身にまとい、ねたみを外套として身をおおわれた。」にも神の民が頭にかぶるべきかぶとは「救い」であることを強調しています。

テサロニケ人への手紙第一5章8節にも「しかし、私たちは昼の者なので、信仰と愛の胸当てとして着け、救いの望みというかぶとをかぶり、身を慎(つつし)んでいきましょう。」と書かれています。

救いのかぶとは何ですか。救いの確信、つまり**救い主イエスキリストを受け入れ信じた事により、自分は救われたことを確信する信仰**なのです。ですからこの救いのかぶとは信仰の胸当てとは若干(じゃっかん)違います。これはイエスキリストが私の唯一救い主であり、神様はそのイエスキリストを通して、私を救ってくださる唯一の道である！そのイエスキリストの十字架の恵みによって私は救われたという信仰と確信をかたく握り保つことなのです。

<2. 救いの問題が一番重要です。>

神様の民たちへのサタンが一番激しい攻撃とは何か知っていますか。それは私たちが**神様から頂いている救いの信仰と確信を疑わせ、落胆させて、その救いの確信を失わせるようにすること**です。イエスキリストを信じる信仰を通して、得られた救いの確信、神様の御国への確信、揺るがない救いへの信仰の確信などを疑うようにと試みます。

“お前のような罪人は神様の愛を受ける資格もないし、当然救われる資格もないのに、天国にも入れると本当に思うか、絶対救われると思うか、無理だろう。”というサタンの攻撃に負けてつまずいてしまうことがサタンが一番激しい策略なのです。

そして長い間待ちながら、やっとイエスキリストを受け入れて、洗礼を受け、救われたのに、神の救いの信仰から落胆させ、神様から離れるように攻めて来ます。それが我々に向うサタンの最終的な目標であることを忘れないでください。

ですから、愛する信仰の家族のみなさん！私たちがイエスキリストを信じ、教会に通っている一番大切な理由は聖書の御言葉の約束通りに神の御子イエスキリストを受け入れ、信じることにより、神の救いを受けることではないでしょうか。永遠の死ではなく、神様からの永遠の命、罪赦され、神の御国に入る救いの恵み！

私たちの信仰生活において一番大切なのは、神の救いを得ることであり、その救いの信仰の確信の上に生きることが人生の真の祝福ではないでしょうか。

信仰の生活の中で奉仕や交わりや他にいろいろ仕えることも大切ですが、もし、今晚自分のたましいを神様が呼び出してもイエスキリストを信じる信仰によって絶対神の御国、天国に入れるという救いの確信をもっていますか。

ピリピ人への手紙2章12節で、使徒パウロが「**そういうわけですから、愛する人たち、あなたがたがいつも従順であったように、私がともにいるときだけでなく、私がいなくてもなおされ従順になり、恐れおののいて自分の救いを達成するよう努めなさい。**」と語れているように、私たちは神様の御前で救いが全う(まっとう)されるまで、天国にたどり着くその日までこの世の中で心を慎(つつし)んでいつも自分自身を救いの信仰を確かめ、保つようにとすすめられています。

私たちの信仰において一番大切なのは**救いの信仰と確信**なのです。

愛するクリスチャンプレイズチャーチのみなさん！この地においてはたとい、どんなに苦しくても、辛くても、後で私たちにすでに決まっている変わらない希望と望みがあるならば、耐え忍んで、乗り切って生けるのではないのでしょうか。

例え、今の人生の道のりが願い通りにならず、どんなに疲れて、厳しくても、私たちに確実な神に救われたという信仰の確信と、人生の旅人として、我々が必ず帰れる天国への約束を強く抱きつかんでいるなら、向こうへの望みを抱き、感謝を持って進み行けるではありませんか。

結婚した女性の方々は、子どもを妊娠すると、人としてはじめて体内の中新しい命を身ごもりながら、益々重くなる体を耐えながら、ひどいつわりを耐えながら、眠れない夜を過ごしながら、自由に食べることも出来ず、約36-38週間よく耐えます。それだけではなく、また今までまったく経験したことのない死にたいほど、長い時間の陣痛を耐えられます。なぜそれが可能でしょうか。この苦しみの中で、迎える、出会える新しい命への希望と望みがあるから、我慢し、忍びて、乗り越えることが出来るわけですね。

同じように、**救いの確信とその御国への望みを抱いているなら、しばらくこの地上での苦しみと悲しみを耐え、乗り越えることが出来るのです！**

例え) 赤ちゃんのころから医療ミスで小児麻痺(しょうにまひ)になり、一生涯言葉もうまくしゃべれず、普通の人間としての生活は不可能であって人間的には不幸に見えたある姉妹がいました。韓国の有名な詩人ソンミンヒという姉妹です。何度も思秋期の時、みずぼらしい自分自身をかがみで見ながら、何度も自殺しようとしたことが、失敗しました。そんな彼女がイエス様を知り、信じてから得られた救いの感激と喜びがあまりにも大きかったため、その心を信仰の詩の形として書き始めました。

今はとても有名なクリスチャン詩人となり、多くのさまよい、苦しんでいる多くの人々にイエスキリストの愛と救いの希望が分かち合われるように、多くの信仰の詩を残しました。その体表的な詩をご紹介します。

タイトル: “私” : <私持っている多くの物ないけれど / 私ほかの人も持っているたくさんの知識はないけれど / 私ほかの人のような健康はないけれど、私ほかの人にはないものがある。私、他の人が見れなかったことを見、他の人が聞けなかった御声を聞き、他の人が受けたことのない愛を受け、ほかの人が知らない事実を悟られた。等(ひと)しい神様はほかの人が持っているもの私にはないけれど、等しい神様はほかの人もってないすばらしいものを私に与えてくださったのだ。

ルカの福音書10章20節でもイエス様は弟子たちに悪霊たちに勝ったことによる喜ぶのではなく、弟子たちの名前が天に記されていること！つまり自分が信仰によって救われたことにもっと喜ぶようにと言われました。

かつては救われるなんの資格もなかった罪人であった私たちが、神様の恵みによって救われたというこの事実こそ信じがたい神の恵みであり、神の奇跡であり、一番大きな感謝ではないでしょうか。

< 3. どうやって自分も救いのかぶとをしっかりとらぶることができるのか。 >

するとこれほど大切な救いをいま自分自身は受け取っているのかどうやってわかることができるでしょうか。

簡単です。次の御言葉を今自分の口で認め、心から信じるすべての者は救われると約束されています。次の聖書の箇所を自分を点検して見て下さい。

* ヨハネの福音書1章12節「しかし、この方(イエスキリスト)を受け入れた人々、すなわち、その名(イエスキリスト)を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった。」

* ヨハネの福音書3章16節「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」

* エペソ人への手紙2章8-10節

「8この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたから出たことではなく、神の賜物です。行いによるものではありません。だれも誇ることのないためです。」

* ヨハネの黙示録3章20節「見よ、わたしは戸の外に立ってたたいている。だれでも、わたしの声を聞いて戸(心の)を開けるなら、わたしはその人のところに入って彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。」

* ローマ人への手紙10章9-10節

「なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われるからです。10人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。」

この御言葉を通して今日も私たちが覚えるべき大切な一つがあります。私たちが救われるために、そして救いのかぶとをかぶって勝利するために神様が願われているのは良い行いではなく、まず救いの信仰を強く保つことです。

ただ、信仰によって、私たちが救われることができます。

ですから、イエスキリストの十字架の死による神の救いを今自分が信じ受け入れる時のみ、だれでも、どんな人でも救われ、神の子供になるのです！

ex) ドイツの宗教改革者であったマルチン・ルター先生は1517年、宗教改革を起こす前には当時ほかの神父たちと

同じように、自分の全ての罪の問題の解決と赦しは苦行(くぎょう)を行なうことだと信じ込んでいました。

それで、彼は1510年11月から6ヶ月間巡礼(じゅんれい)の旅に出かけました。当時この巡礼の旅の際(さい)必ず通らなければならないコースがありました。それはローマの「聖階段教会(Scala Sancta)」内にある「ピラトの階段」という28の階段でした。巡礼者たちはキリストの苦難を覚え祈りながら、ひざで一個一個上がっていきました。階段に散らかされているガラスの破片(はへん)は苦しみをさらにし、巡礼者たちは血を流しながらひざであがったり、おりたりしながら神様にたいする自分の愛と功労(こうろう)を表しました。それによって、自分が救われると信じ込んでいたのです。

ルータも回りと同じくローマの巡礼旅行の際(さい)ここに来てひざで階段を一段一段這(は)い登(のぼ)りました。

ひざにはきずついて血だらけになりましたが、このようにやることにより自分の罪はゆるされ、救われるかも知れないと信じ込んでいたのです。しかし、我慢して、ひざのまま這(は)い登(のぼ)り続(つづ)きました。しかし、それにもかかわらず心の苦しみと罪責感はなくならず、さらにましくわれられ、なおさら心の平安もまったくありませんでした。

するとふっとルター先生の頭にローマ人への手紙1章17節の御言葉が思い浮かびました。

「義人は信仰によって生きる！」ルター先生はその御言葉によって、心が熱くなりもうそのままいられませんでした。

それで、その場で立ち上がり歩いて階段を下(お)りて来まして、神の救いは決して人の行い(功労、苦行、良い行いなど)からではなく、イエスキリストを信じる信仰によって救われると言う聖書の内容通りに受け入れ、信じ始めたのが、1557年ドイツから全ヨーロッパに広がった宗教改革運動の始まりとなりました。

人間の苦しみと行いによって神様の前で自由にされる人生、罪から赦され、解放され、救われる人生は一人もいないということです。“神に救われる義人は信仰によるしかない”ここで信仰というのは何でしたか。私は死ぬべき罪人ですが、イエスキリストが私の罪の身代わりとなって十字架で死んでくださったことを信じて、私のあらゆる罪はイエスキリストを信じるだけできよめられ、救われるということを受け入れることが信仰なのです。

神様に救われるということは神様の御言葉によれば決して人にむずかしいことではありません。

どんな人でも救われます。たくさん教育を受けた人も、そうではない人も、金持ちでも、まずしい人でも、どんなにひどい罪をおかしたとしても、今日救われますが、しかし、**だれもが救われません。** 私たちにイエスキリストの十字架への信仰がなければなりません。神様にとって大事なものは御子イエスキリストによる信仰があるかどうかにかかっています。

“私は罪人です。どうか私のすべての罪をお赦し下さい。罪による永遠の死から救い出してください。

イエス様が私の罪を赦すために死なれ、救いを与えて下さるために、よみがえられた真の神の御子とあり、私の救い主として信じます。今私の心のとびらを開き、あなたを私の神、私の救い主として受け入れます。聖書の神の御約束のことは通り、あなたを信じる私の全ての罪が赦され、神の救いが与えられていることを信じます。

そして、これからは私一人ぼっちではなく、あなたがともにおられ、神の御国にたどり着くその日まで私とともにして下さることを信じます。これからはあなたとともに、あなたを信じる信仰によって生きる者としてください。イエスキリストのお名前によってお祈りします。アーメン！”と祈り、告白して見ませんか。告白さえあれば、人々は例外なく、神様の恵みにあずけられることができます。

聖書は神の救いは価なしでただであるため、神の恵みによるものだと教えて下さっています。

エペソ人への手紙 2章 8節で神の恵みのゆえに信仰によって救われたと教えて下さっています。

ここで「**恵み**」という単語はギリシヤ語で「**カリス**」という単語で、原語の意味は「**代価のない贈り物、ただ**」という意味です。しかし、救いはもっともっとやすく、取るに足りないからただで与えられたわけでは決してありません。私たちはただでいただくように見えますが、**神様の方ではそのために一番高く払われました。** 私たちを救うため神様であるイエスキリストを十字架で死なされたのです。これは**神の愛のゆえに値(あた)いなしだったため、人間の基準では値段をつけない一番高価で尊いものであります！その尊い救いの恵みを神様は私たちにただで与えられたのです。ただこの事実を信じる者**

であればだれでもです！

<4. 救いのかぶとをしっかりとかぶった人に与えられる祝福>

この救いのかぶとをかぶった人つまり救いの信仰の確信をもっている人はどうなりますか。救われます！しかし、いずれ死んで天国に入れるだけではなく、イエスを受け入れた瞬間から、この地上での私たちの人生も変わります。わたしたちに新しい望みと希望が与えられます(使徒の働き 2:17)。どんな悪霊どもの試みと攻撃があっても大胆に対抗し、打ち勝つことのできる、信仰の力がつきます(ルカの福音書 10:19)。イエスを信じて救いの確信がある為、揺るがず進み行きます。神様の子供とされたので、死に対する恐れも、将来への心配と不安(ヨハネ1:12)からも自由にされます。神様による新たな人生の希望が与えられます(ローマ 5:4-8)。神様と人々を愛し、和解できる力と知恵が与えられます(ローマ 5:1,10)。どんな患乱がやって来ても神様の救いを覚え、主に合って感謝し、喜ぶことができます(ローマ 5:11)。イエス様のように赦し、愛することが出来ます(ローマ 5:5)。

<まとめ>

愛する信仰の家族のみなさん!このすばらしい救いの感激をもう一度回復されますように切に願います。このような救いのかぶとをかぶっているなら、あえて悪魔は私たちに倒すことも、揺るぐことなく、かりに試みる時があっても、正しく見極め、打ち勝ち、勝利して神様に栄光を帰すことができると信じます。神様に対する救いのこの確信が私たちをいかに強くし、揺るがない信仰で生きることができるようにしてくださるのかわかりません。

救いのかぶとをしっかりとかぶりましょう！救いのかぶとつまり神様に対する救いの信仰の確信の上にしっかりと立って歩むことが出来ますように切に祈ります。そして、もしこの救いの確信がない方がいれば、今日この御言葉を通してもう一度イエスキリストを信じる信仰が与えられますように節にお祈り申し上げます。神様に対する救いの確信は神様の御言葉を聞くことから始まります。もう一度与えられている神の救いを確かめ、しっかりとつかんで強められ、キリストの愛と救いの勇士として大いに用いられる 5 月となりますように主イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン！